



シンポジウム  
社叢が紡ぐ地域の絆  
～いのちと心を守る鎮守の森

東北は

よみがえる。

ドナルド・キーンが

上田正昭が

日本文化と復興にかける思いを語る。

11月16日(水)に  
学士会館(東京都千代田区神田錦町3-28)で

主催 NPO法人社叢学会

# 社叢が紡ぐ地域の絆～いのちと心を守る鎮守の森

日 時：2011年11月16日(水) 13:00～17:00 (受付開始：12:00)

会 場：学士会館2階210号室(東京都千代田区神田錦町3-28 tel 03-3292-5936)

地下鉄都営三田線・新宿線、東京メトロ半蔵門線「神保町」駅下車A9出口1分

東京メトロ東西線「竹橋」駅下車3a出口から徒歩5分「東京」駅北口からタクシー10分

定 員：300人(申し込み先着順)

参加費：社叢学会会員 1人1,000円 一般 1人1,500円

スケジュール：

13:00～13:05 開催挨拶 上田正昭・NPO法人社叢学会理事長

13:05～14:05 講演：危機の後の文化 ドナルド・キーン社叢学会名誉顧問

14:05～14:20 対談：キーン名誉顧問・上田理事長

14:20～15:20 講演：鎮守の森と日本文化 上田正昭理事長

15:30～17:00 パネルディスカッション：社叢が伝える復興の道標

被災社叢調査報告を交えて

パネリスト：広井 良典(千葉大学経済学部教授)

森本 幸裕(社叢学会理事・京都大学地球環境学堂・学舎

地球親和技術学廊 景観生態保全論教授)

糸谷 正俊(社叢学会理事・日本公園緑地協会調査役)

コーディネータ：蘭田 稔(社叢学会副理事長・京都大学名誉教授・秩父神社宮司)

ドナルド・キーン(社叢学会名誉顧問・コロンビア大学名誉教授)：1922年ニューヨーク生まれ  
16歳でコロンビア大学文学部に入学。A. ウェイリー訳『源氏物語』に感動し、日本語を学び始めると共に、日本研究の道に入る。第2次世界大戦時には海軍に勤務し、日本語の通訳官を務めた。復員後コロンビア大学に戻り、助教授、教授を経て、名誉教授。古典から現代文学まで研究対象の幅は広く、『奥の細道』の英訳のほか、『日本文学の歴史』『百代の過客』『明治天皇』など著書多数。2008年に文化勲章受章。

上田正昭(社叢学会理事長・京都大学名誉教授)：1927年兵庫県生まれ 京都大学文学部卒業後、同大学助教授、教授を経て、名誉教授。日本古代史を中心に神話学・民俗学などを視野に入れ、広く東アジア的視点から歴史を究明。著書に『日本神話』『古代伝承史の研究』『東アジアの中の日本』など多数。2002年に社叢学会を設立、理事長に就任。2003年勲二等瑞宝章、2009年に韓国大統領修交勲章。

申し込み・問合せ：NPO法人社叢学会

〒604-8115 京都市中京区雁金町373番地 みよいビル303号

TEL：075-212-2973 FAX：075-212-2916 E-Mail：shasou@ams.odn.ne.jp

## 参加申込書

FAX：075-212-2916 E-Mail shasou@ams.odn.ne.jp

お名前

携帯電話番号・  
携帯アドレス等当日連絡先

2011年11月

シンポジウム 社叢が紡ぐ地域の絆 ～いのちと心を守る鎮守の森  
意義とねらい

鎮守の森や塚の木立、いわれのある古木群(社叢)は、地域コミュニティの核であり、住民の心にうるおいや安らぎを与えるかけがえのない宝物である。NPO 法人社叢学会は、こうした社叢の保全・育成等の活動を十年に亘り全国で展開し、地域のコミュニティづくりや緑のまちづくりに貢献している。

東日本大震災被災地では地域コミュニティが壊滅的な被害を受けたが、瓦礫の山と化した灰色の風景の中ですくと立つ 1 本の木や、潮水を被りながらも花を咲かせた桜に人々は勇気付けられ、もう一度そこに戻らねばならないという決意を新たにしたのではなかったか。被災しながらも雄々しく枝葉を伸ばす樹木・樹林は、まさに地域コミュニティのシンボル、復興のシンボルであり、社叢とコミュニティの共存する関係こそが復興の拠り所となる。

このような考えのもと、NPO 法人社叢学会は被災地での社叢復興の意味と意義を広く訴えるシンポジウムを開催することとした。

講演では日本文化に深い理解と愛情を寄せ、震災を機に日本での永住を決意したドナルド・キーン氏(コロンビア大学名誉教授・当学会名誉顧問)、歴史学者としての深い知識に裏打ちされた日本文化論を発信してきた上田正昭・当学会理事長(京都大学名誉教授)が、復興への思いを語るほか、シンポジウムでは、被災地で社叢調査を重ねてきた森本幸裕・当学会理事(京都大学教授)、糸谷正俊・当学会理事(公園緑地協会調査役)に公共政策における社叢の重要性を指摘してきた広井良典・千葉大学教授が、当学会が派遣した被災地社叢調査団団長を務めた藪田稔・社叢学会副理事長(京都大学名誉教授・秩父神社宮司)と共に多彩な観点から日本文化と社叢、震災復興について議論する。

以上

## 講師略歴

ドナルド・キーン（社叢学会名誉顧問・コロンビア大学名誉教授）：1922年ニューヨーク生まれ、16歳でコロンビア大学文学部に入学。A. ウェイリー訳『源氏物語』に感動し、日本語を学び始めると共に、日本研究の道に入る。第2次世界大戦時には海軍に勤務し、日本語の通訳官を務めた。復員後コロンビア大学に戻り、助教授、教授を経て、名誉教授。古典から現代文学まで研究対象の幅は広く、『奥の細道』の英訳のほか、『日本文学の歴史』『百代の過客』『明治天皇』など著書多数。2008年に文化勲章受章。

上田正昭（社叢学会理事長・京都大学名誉教授）：1927年兵庫県生まれ、京都大学文学部卒業後、同大学助教授、教授を経て、名誉教授。古代日本・東アジア史を中心に神話学・民俗学なども視野に入れ、広く東アジア的視点から歴史を究明。著書に『上田正昭著作集』『日本神話』『古代伝承史の研究』『古代国家と東アジア』など多数。2002年に社叢学会を設立、理事長に就任。2003年勲二等瑞宝章、2009年に韓国大統領修交勲章。

広井 良典（千葉大学法経学部総合政策学科教授）：1961年岡山県生まれ、東京大学教養学部（科学史・科学哲学専攻）卒業後、同大学大学院総合文化研究科（相関社会科学専攻）修士課程修了。厚生省に勤務の後、千葉大学法経学部助教授を経て現職。専攻は公共政策、科学哲学。2009年には『コミュニティを問いなおす一つながり・都市・日本社会の未来』で第9回大佛次郎論壇賞受賞。宮城県震災復興会議、朝日新聞「ニッポン前へ委員会」委員。著書に『創造的福祉社会』『グローバル定常型社会 地球社会の理論のために』など多数。

森本 幸裕（社叢学会理事・京都大学大学院農学研究科・同地球環境学堂教授）：1948年大阪府生まれ、京都大学農学部卒業後、同大学院農学研究科博士課程単位取得、農学博士。京都芸術短期大学教授、京都造形芸術大学教授、大阪府立大学農学部教授を経て京都大学大学院農学研究科教授（環境デザイン学）に。2002年からは同大学院地球環境学堂教授を両任。日本景観生態学会会長。中央環境審議会臨時委員等。著書に『いのちの森—生物親和都市の理論と実践』など多数。

糸谷 正俊（社叢学会理事・（社）日本公園緑地協会調査役）：1947年兵庫県生まれ、京都大学農学部林学科卒業後、（株）都市科学研究所入社。1983年には（株）総合計画機構を設立、代表取締役を経て、現職。都市計画、都市緑地計画が専門で、40年間にわたり建設コンサルタントとして活動。2008年に都市防災公園の研究で（社）日本造園学会賞受賞。著書に『防災公園技術ハンドブック』（共著）など。

藪田 稔（社叢学会副理事長・京都大学名誉教授・秩父神社宮司）：1936年埼玉県生まれ、東京大学大学院人文科学研究科修了後、國學院大学日本文化研究所に。同助教授・教授を経て、京都大学教養部（現・総合人間学部）教授、同大学院人間・環境学研究科教授を兼任。2000年に定年退官、その後、國學院大学特任教授・皇學館大学特任教授を歴任。神話・儀礼論を中心とした宗教学宗教史並びに神社神道論の研究者として国内外で活躍。1976年に日本宗教学会賞。著書に、『祭の現象学』『誰でももの神道—宗教の日本の可能性』『神道の世界』、共編に『神道史大辞典』など多数。